

狛江郷土カルタ カルタ大会のルール

はじめに

狛江郷土カルタは、狛江の歴史や文化、自然などについてよんだいろはカルタです。絵札は、狛江のセールスポイントの一つとなっている絵手紙でかかれています。

カルタ大会では、対戦ごとに勝負がつきますが、勝敗ばかりにこだわらず、ルールを守ってみんなで一緒に楽しみましょう。そして、このカルタには、狛江の魅力がたくさん詰まっているので、カルタによまれた狛江、絵札にかかれた狛江にも注目して、狛江の魅力に触れてみましょう。

1. 競技進行の役割

(1) 進行係

- 競技の一切を取り仕切ります。
- 判定の最終判断をします。
- 競技の開始、一時中断、再開、終了など、読み手・審判員と連携しながら競技を進めていきます。

(2) 読み手

- ペースや間に気を配りながらカルタを読み上げます。
- 聞き取りやすいように、はっきりとした声で読み上げます。

(3) 審判員

- 各競技場に1人配置します。
- 試合開始の前に、競技に使う44枚の札を確認します。
- 競技中は、札の位置や競技者の姿勢など、不適切なことがあれば指導します。
- 札の取り手や“お手つき”などを判定します。
- 判定が難しいときは、競技を一時中断し、進行係と協議して問題を解決します。

2. 競技をはじめるまで

- 競技は個人戦または3人1組の団体戦で行います。
- 競技者は対戦相手と向かい合って座ります。団体戦の場合は、3人が横並びになり対戦相手と向かい合って座ります。
 - ＊4人による個人戦の場合は、2人が横並びになり対戦相手と向かい合って座ります。
- 競技者が向かい合った真ん中に“中央線”を引いて陣地をわけます（あらかじめ“中央線”を決めておいてから向かい合って座ることもあります）。
- 競技者は姿勢を正し、進行係の「これから競技をはじめます。お互いに礼。」の言葉とともにお互いに礼をします。

3. 札の並べ方

- 審判員は札を裏返して競技者（団体戦の場合はチームキャプテン）に渡し、競技者（キャプテン）は札をよく切って審判員に戻します。審判員は、もう一方の競技者（キャプ

テン)にも札を裏返して渡し、競技者(キャプテン)は札をよく切って審判員に戻します。

* 4人による個人戦の場合は、同様の流れで、4人の競技者全員が札をよく切って審判員に戻します。

- 審判員は裏返しのまま1枚ずつ計22枚の札を両者(両チーム)に配ります。
 - * 4人による個人戦の場合は、1枚ずつ計11枚の札を1人に配ります。
- 競技者は配られた札を表にして自陣に並べます。
 - * 1対1の個人戦の場合は、札を3段で“中央線”から8枚・7枚・7枚になるように並べます。4人による個人戦の場合は、各人の前に札を2段で“中央線”から6枚・5枚になるように並べます。団体戦の場合は、札を2段で各段が11枚になるように並べます。各札は等間隔にして並べ、札の間隔が狭かったり、“中央線”から離れすぎている場合は、審判員が並べ直しを指導します。(【図】札の並べ方を参照)
- 競技者(キャプテン)は、札を並べ終わったら審判員に告げ、審判員は準備が整ったら進行係に合図を送ります。
- 進行係は、すべての競技場の準備が整ったら少し間をおき、「それでは、これからカルタの札の読みあげをはじめます。」と告げます。
 - * 審判員が進行係に合図を送り、進行係が札の読みあげを告げるまでが札の配置場所の記憶時間です。記憶時間に入ったら札の並べ替えはできません。
 - * 競技中は、札をはじめに並べた位置から並べ替えてはいけません。競技中に札が動いた場合は、すみやかに元の位置に戻します。戻す際は、審判員に声をかけ、審判員はきちんと元の位置に戻ったか確認します。

4. 競技の進行方法

- 進行係が札の読みあげを告げたら、読み手は「では、最初の札を読みます。(一息ついて) ○○○○○…」と、1枚目の札を読みます。
- 審判員は札が取られたのを確認して、進行係に合図を送ります。
- 進行係は、すべての審判員からの合図を確認したら、手を上げて審判員に確認の合図を送ります。
- 続けて、進行係は上げた手を下ろして読み手に合図を送ります。読み手は合図を確認したら、「次の札を読みます。(一息ついて) ○○○○○…」と、2枚目の札を読みます。
- 以上の流れで3枚目以降の札も読み進めていきます。
- “お手つき”などの対応のため、競技を一時中断させる場合は、審判員は手を上げて進行係に伝えます。対応後、審判員は手を上げて合図を送り、進行係は場を静粛にします。進行係は、手を上げて読み手に合図を送り、読み手は合図を確認したら次の札を読みます。
- 札が残り2枚になったら、進行係は競技を一時中断します。審判員は、“中央線”の上に札を並べ直し、審判員から見て手前の札を右側の競技者(チーム)に向け、奥の札を左側の競技者(チーム)に向けます。(【図】札が残り2枚になったらを参照)
- 団体戦の場合、両チームのキャプテンは自陣の真ん中に座り、チームを代表して最後の札取りを行います。

- ・競技者の態勢が整ったら、審判員は進行係に合図を送り、進行係はすべての審判員からの合図を確認したら、場を静粛にします。進行係は、手を上げて読み手に合図を送り、読み手は合図を確認したら43枚目の札を読みます。43枚目の札を取った競技者は、残りの札（44枚目の札）を取ることができます。

5. 札の取り方

- ・札は先に手を触れた競技者が取ることができます。ただし、両手を使ってはいけません。
- ・札の取り方は、上から押さえたり、横にはじき飛ばしたり、押しでも引いてもよいですが、読まれた札以外の札に手が触れたときは、“お手つき”になります。
- ・札に複数の手が重なった場合は、一番下に手を置いている競技者が取ることができます。
- ・手が同時の場合は、読まれた札のある陣の側が取ることができます。
- ・札を読む前からからだ（手やひじも含む）を札の上に乗りに出してはいけません。
- ・対戦相手を妨害する行為、危険な行為、またこうした行為とみなせる行為には、審判員が注意を与えます。注意を守らない場合は、注意を受けた競技者が一回休みになります。

6. “お手つき”の処理

- ・読み上げた札と異なる札に触れた場合は“お手つき”になります。
- ・“お手つき”があっても、どちらかが札を取るまでその回は進めます。“お手つき”をした競技者がその回にあらためて札を取り直すこともできます。
- ・“お手つき”をした競技者は次の回を一回休みとします。
- ・“お手つき”で誤って取った札は元の位置に戻します。
- ・競技者全員が“お手つき”をした場合は、次の回の一回休みはなくなります。
- ・審判員が相手を妨害するような“故意のお手つき”と判断した場合は、すでに取った札の中から1枚を相手に渡し、“故意のお手つき”をした競技者は次の回を一回休みとします（持ち札がない場合は一回休みのみ）。

7. 競技の終了（得点計算）

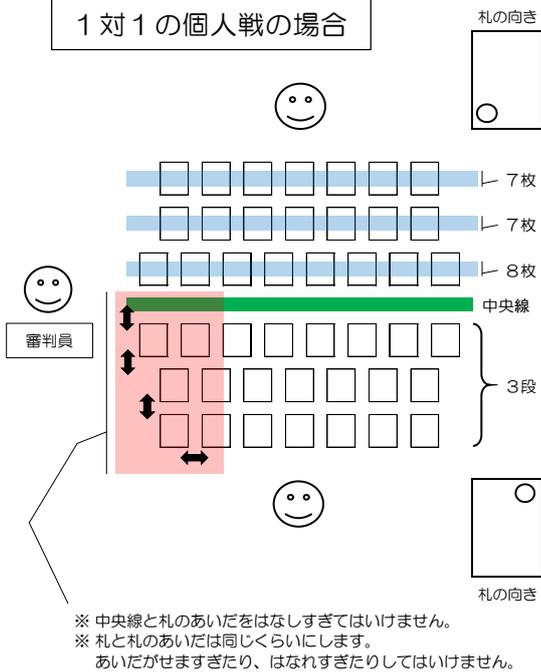
- ・最後の札を取り終わったら、審判員は競技者（キャプテン）に得点カードを渡します。競技者は、札を確認しながら得点カードに記入して得点計算します。
- ・競技者（キャプテン）は、得点カードと札を審判員に渡し、審判員は再度得点計算をして結果を確認し、対戦結果表を記入します（この段階では両チームに勝敗を告げません）。

*得点計算

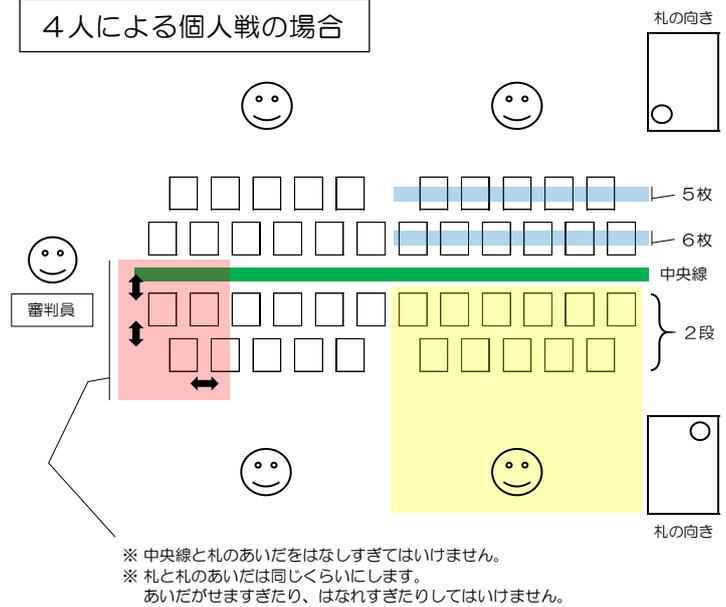
- ・札は、1枚を1点として数えます。ただし、文化財札の9枚（「い」「は」「ち」「ぬ」「か」「れ」「そ」「て」「も」）は1枚を2点として数えます。
- ・「こ」「ま」「え」の札が3枚すべてそろると5点加算します。
- ・同点となった場合は、獲得した札の枚数が多いほうが勝ちになります。
- ・審判員は対戦結果表を進行係に渡し、結果を報告します。
- ・進行係はすべての結果報告を受けたら、場を静粛にし、結果を発表します。
- ・結果発表後、進行係は場を静粛にして姿勢を正し、進行係の「それでは、対戦を終わりにします。お互いに礼。」の言葉とともにお互いに礼をして競技を終了します。

【図】札の並べ方

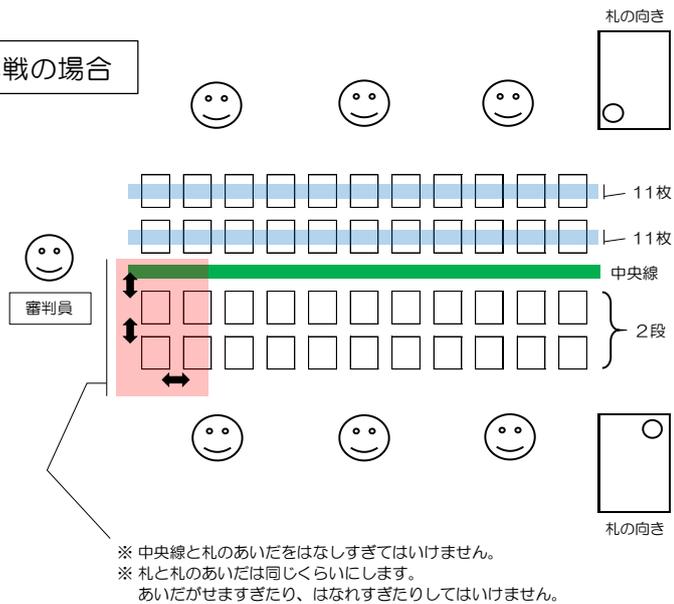
1対1の個人戦の場合



4人による個人戦の場合

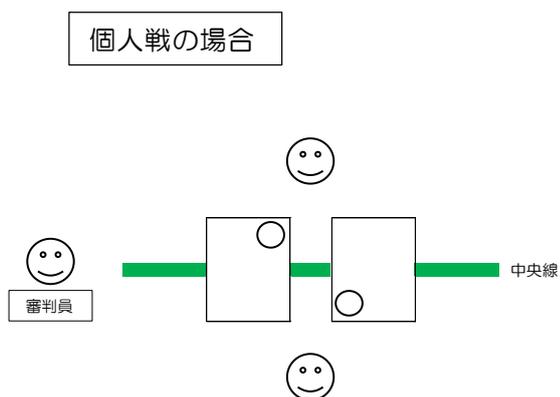


3人1組の団体戦の場合



【図】札が残り2枚になったら

個人戦の場合



団体戦の場合

